



岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

平成 31 年 3 月 7 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

2019 年第 9 週
(2/25~3/3)

- インフルエンザの患者報告数は減少し、すべての保健所別管内で定点当たり 10 人を下回ったことから、県内のインフルエンザ警報は解除されました。→トピックス
- ロタウイルスによる感染性胃腸炎（基幹定点）の患者報告が増加しています。

■ 定点把握対象疾患の発生動向（インフルエンザ定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

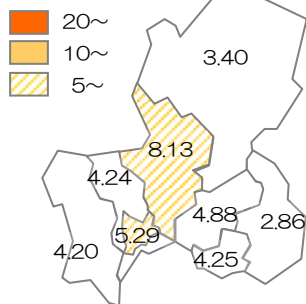
レベル	疾患名	基準	該当保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—	
注意報レベル	なし	—	

※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。

警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

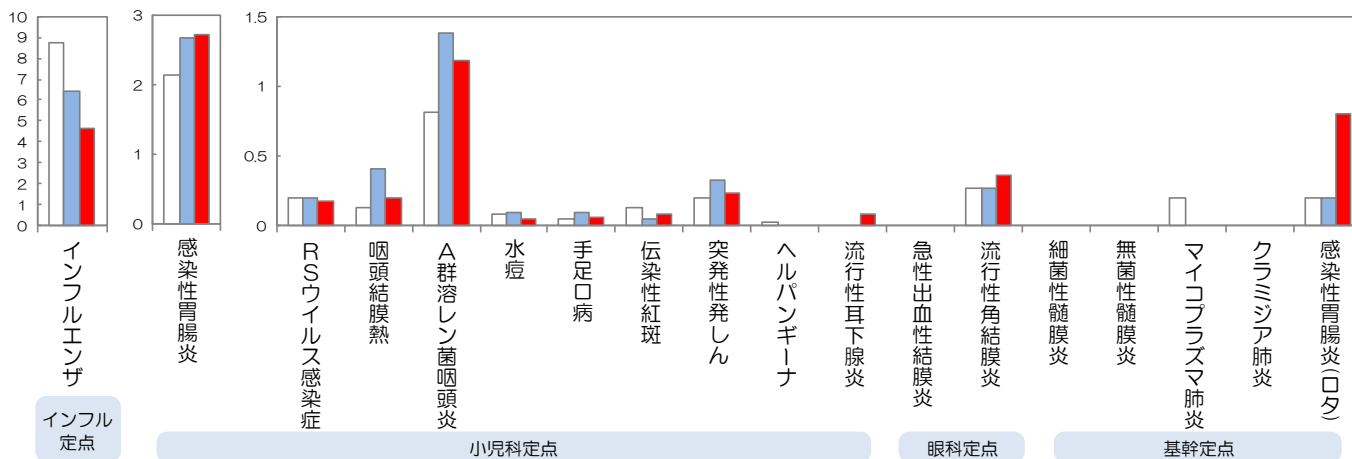
● 注意したい感染症の保健所別流行状況（地図中の数値は定点当たり報告数）

<インフルエンザ>



● 直近 3 週の推移

□ 前々週 □ 前週 ■ 今週（縦軸は定点当たり報告数）



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 8 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：レジオネラ症 1 例
- 5 類感染症：水痘（入院例）1 例、梅毒 2 例、

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■ トピックス

● インフルエンザ

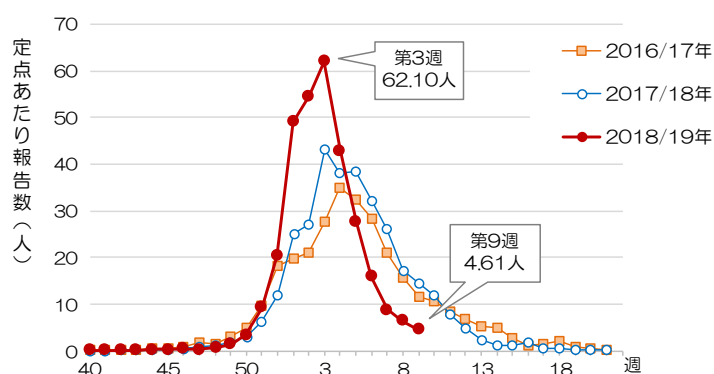
◇ 県内のインフルエンザ警報は解除されました

県内のインフルエンザ定点医療機関からのインフルエンザ患者報告数は、第3週をピークに減少し、第9週は定点当たり4.61人となっています。

また、第9週には、保健所別の患者報告数もすべて定点当たり10人を下回ったことから、県内に発令されていたインフルエンザ警報が解除されました（3月7日）。

県内の流行は終息に向かっていているものの、現在も患者の報告は続いているので、今後もしばらくは動向に注意が必要です。

図1 インフルエンザ患者報告数（岐阜県：87定点）



◇ 今シーズンの県内流行動向

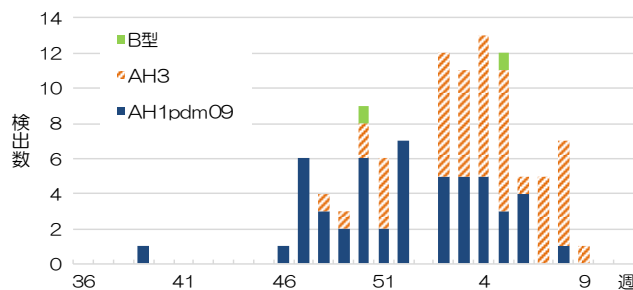
今シーズン、県内では2018年第49週（12/3～12/9）に患者報告数が流行入りの目安とされる定点当たり1人を超えました。流行入り後、患者報告数は急速に増加し、特に第1週から第3週（12/31～1/20）にかけてきわめて高いレベルで推移しました（図1）。第3週に今シーズンのピークとなる定点当たり62.10人となり、その後は減少に転じました。ピークの高さは過去10シーズンで最も高くなりましたが、ピーク後の減少のペースは速やかでした。

岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスによる迅速診断キットA・B型別の患者報告状況を見ると、今シーズン第36週～第9週（9/3～3/3）に報告された患者（臨床診断例を除く）の99.6%がA型で、シーズンを通してA型が主流であり、現在までにB型の流行はみられませんでした。

また、今シーズン、県内で3月3日までに102人の患者からインフルエンザウイルスを検出し、型・亜型別ではAH1pdm09が51人（49.5%）、AH3（A香港型）が50人（48.5%）、B型が2人（1.9%）となっています（AH1pdm09とB型の同時検出1人を含む）。

今シーズンはAH1pdm09とAH3の両亜型が流行し、AH1pdm09は流行の前半、AH3は流行の後半に多く検出される傾向にありました（図2）。

図2 ウイルス検出状況（岐阜県 n=102）



○ 感染症法における取扱い

インフルエンザは、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約5,000か所（岐阜県87か所）のインフルエンザ定点から毎週報告がなされています。

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/>